

## 日本産海鳥ノ一ト (1)

中村一恵\*・田中裕\*\*

Notes on Japanese sea-birds (1)

Kazue NAKAMURA\* and Yutaka TANAKA\*\*

## Summary

1. An immature Greater Frigate Bird (*Fregata minor*) collected in Tokyo Bay, 28th September 1959 after a typhoon, is reported with the weather conditions as a cause of the straggling appearance.
2. Recent pelagic records of Laysan Albatross (*Diomedea immutabilis*) in Sagami Bay, are reported with published data from its adjacent area (33°-36°N, 139°-141°E). They occur in winter from December to March in the area. According to Sanger(1974b), these birds are no doubt mostly prebreeding immatures, but probably include some adult breeders. Laysan Albatrosses are seldom found in the area in summer from May to September; they probably move northward out of the area as spring approaches.

## はじめに

1959年9月、横浜市金沢区小柴海岸でグンカンドリ1羽が捕獲された。この記録は、捕獲当時、村上(1959)によりコグンカンドリ(*Fregata ariel*)として報告された。最近この記録の標本が横浜市立金沢中学校に保存されていることを知り、調査する機会を得、山階鳥類研究所の標本と比較検討した結果、オオグンカンドリ(*F. minor*)幼鳥と同定できた。日本における本種の確実な記録は少ないのでここに報告する。また、相模湾における東京大学海洋研究所淡青丸の研究航海(1977年2月-3月)でコアホウドリ(*Diomedea immutabilis*)の分布に関する若干の資料を得ることができた。相模湾における最近の記録として報告し、この近海における本種の分布と渡りについて若干考察をする。

報告をまとめるに当たり、標本調査に多大なご便宜をはかって下さった横浜市立金沢中学校校長山本健次郎氏、同校副校長福井直良氏、山階鳥類研究所松山資郎、笹川昭雄の両氏、神奈川県立博物館学芸部主任研究員生出智哉氏、並びに標本の閲覧を許された山階鳥類研究所と調査にご協力いただいた東京大学海洋研究所淡青丸乗組員各位、以上の諸氏と関係機関に深甚なる謝意を表する。

\* 神奈川県立博物館

\*\*東京大学海洋研究所淡青丸

## 1. 東京湾ゲンカンドリ標本について

ゲンカンドリ科 (Fregatidae) 5種のうち日本で記録されているのは、コゲンカンドリ (*Fregata ariel*) とオオゲンカンドリ (*F. minor*) の2種である。

2種の体の大きさ (Serventy *et al* 1971) は次の通りである。コゲンカンドリ, 4♂♂—翼長534mm (518—550); 尾長317 (307—331), 5♀♀—翼長547mm (534—562); 尾長318 (314—324), オオゲンカンドリ, 12♂♂—翼長582mm (540—612); 尾長397 (371—428), 13♀♀—翼長607 (552—638); 尾長415 (392—444)。

オオゲンカンドリは平均上コオオゲンカンドリより大きく, 各々平均上雌は雄よりも大きいと言える。嘴もオオゲンカンドリでは強大で太く長いのに対し, コゲンカンドリでは前種と比較して細くて短かい (Table-1. Fig. 1 参照)。

東京湾産 (性不明, Plate. 1) の測定値は, 翼長557.0mm, 尾長290+x, 嘴長101.0であった。本標本は体の大きさから *F. minor* 幼鳥に含まれるものであろう。

筆者らの知る限り, これまで日本 (南西諸島・小笠原諸島を除く) からのオオゲンカンドリの採集記録は次の2例である。

第1例：雌幼鳥1羽, 1954. 11.30 八丈島三原山 (藤本 1956)

第2例\*：雄成鳥1羽, 1975. 8.29 大分県杵築市奈多 (環境庁 1976)

Table-1 Comparison of exposed culmen length in males and females of two species of *Fregata*

	N	Sex		
<i>F. minor</i>	7	♂ad	89-104 (97)	Murphy <i>et al</i> 1954
		♀ad	102-118 (110)	
	12	♂	96-108 (102)	Serventy <i>et al</i> 1971
		♀	106-123 (116)	
<i>F. ariel</i>	4	♂	79-87 (83)	Serventy <i>et al</i> 1971
	5	♀	84-93 (88)	

## 陸地迷行の原因

台風15号 (伊勢湾台風) の中心気圧は, 台風となった9月21日21時に1002mb, 22日15時には970mb, 23日9時には905mbと深まり, 6時間後の同日15時には894mb, 最大風速70m/s以上という超大型台風となった。台風はその後あまり衰えることなく北上し, 30°Nをこえるところから潮岬西方に上陸するまで, 中心気圧はほとんど925mbぐらいで, 直径45kmのはっきりした眼を伴っていた (Fig. 2)。台風は6時間あまりという速さで日本を横断したが, 強い勢力を保ち暴風半径が非常に大きかったので, 紀伊半島や東海道では最大風速30m/s以上の暴風雨となった (日本気象協会 1973)。

このオオゲンカンドリは, 台風経路の右すなわち東側の海上にあって, 南の強風に翻弄

\* 標本・山階鳥類研究所蔵

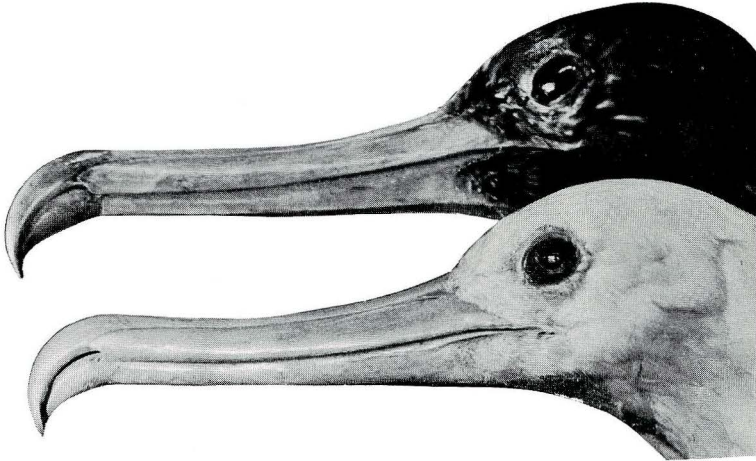


Fig. 1. Bill of *Fregata minor*. Upper; an adult bird collected at Nada, Kitsuki-shi, Ōita Prefecture ( $33^{\circ}25'N$ ,  $131^{\circ}42'E$ ), 29th Aug. 1975. This bird was banded on James Islet, Eniwetok Atoll, Pacific Ocean ( $11^{\circ}20'N$ ,  $162^{\circ}10'E$ ), 28th Aug. 1968. Culmen (exposed) length; 103.0 mm. Lower; an immature bird obtained in Tokyo Bay, 28th Sept. 1959. Culmen (exposed) length; 101.0 mm.

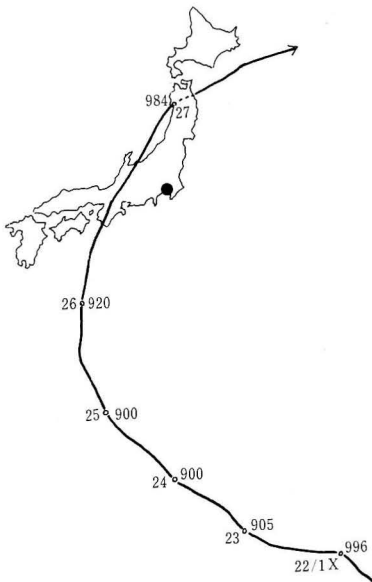


Fig. 2. Typhoon passage and position of a *F. minor* collected.

されながら陸の方に吹き流され、体力を消耗して落下したものと推定される。捕獲報告は9月28日である(標本ラベルによる)が、台風の経路と強風の吹いた日から推定すれば、落下は9月26日から27日にかけてであろう。ちなみに静岡県御前崎における9月26日の観測では、最低気圧986.3mb(20時53分)、最大風速SSW, 35.6m/s(22時50分)、最大瞬間風速S, 44.4m/s(21時47分)であった。

## 2. 相模湾近海におけるコアホウドリの分布と渡り

東京大学海洋研究所調査船淡青丸による3回の調査（第1回：1977年2月3日—9日；第2回：3月1日—10日；第3回：3月17日—27日）で得られたコアホウドリの観察記録を Table-2 に示し、相模湾近海（33°—36°N, 139°—141°E）における最近（1950年以降）の記録を Table-3 に示す。



Fig. 3. A Laysan Albatross (*Diomedea immutabilis*) observed in Sagami Bay, 21th March 1977. Photo Y. Tanaka.

Table-2 Present pelagic records of Laysan Albatross from Sagami Bay

日付	観察時間	羽数	位置	気温	水温(c)
1977. 2. 6	16:18	1	34°41' N, 140°01' E	10.0	11.0
	16:40	1			
3. 4	14:55	1	35°11' N, 139°16' E	6.9	17.6
3. 5	17:30	1	35°14' N, 139°13' E	3.5	15.2
3. 6	05:44	1	34°58' N, 139°28' E	2.6	15.3
	06:45	1			
	08:00	1	34°58' N, 139°27' E	2.5	15.5
3. 7	13:00	1	34°52' N, 139°29' E	9.6	15.6
	13:53	1	34°52' N, 139°28' E	10.5	15.9
	14:00	1			
	14:03	1			
3. 8	16:00	1	34°56' N, 139°20' E	14.0	16.5
3. 9	10:00	1	34°54' N, 139°20' E	16.5	16.1
3.21	12:00	1	34°42' N, 139°38' E	9.0	16.5



Table-3 Summary of published data on Laysan Albatross from Sagami Bay and its adjacent area (since 1950)

日	付	羽数	場 所	備 考
1.	1950. 1. 21	1	東京湾浜離宮沖	三島 (1957)
2.	1957. 5.	1	千葉県銚子	//
3.	1960. 12. 22	—	八丈島沖	東京都産鳥類目録 (1975)
4.	1962. 1. 20	—	八丈島	清棲 (1965)
5.	1964. 1. 9	1	千葉県御宿町	//
6.	1964. 1. 10	1	千葉県銚子	//
7.	1964. 12. 13	5	大島—東京航路	東京都産鳥類目録 (1975)
8.	1964. 12. 15	5	大島岡田沖	//
9.	1971. 3. 7	1	大島海域	//
10.	1971. 3. 8	—	大島岡田先	//
11.	1972. 1. 15	1	千葉県印旛郡白井町	千葉県鳥類目録 (1976)
12.	1973. 12. 13	1	千葉市検見川河口	//
13.	1973. 12. 19	1	千葉県勝浦市	//
14.	1973. 12. 26	1	千葉県御宿町	//

Table 2, 3 からわかるように相模湾近海におけるコアホウドリの出現季節は、ほとんどが12, 1, 2, 3月で冬期に限られている。Sanger (1974b) によれば、冬期、コアホウドリは Baja California 北部から British Columbia 南部までの北アメリカと九州までの日本沖合に少ないか普通で、これらは、恐らく若干の繁殖成鳥も含まれるであろうが疑いもなくほとんどのものが若鳥 (Prebreeding immature) である。

コアホウドリの繁殖鳥は11月の第1週に繁殖地 (Midway Atoll) にもどり、産卵は11月の終りから12月の初めにおこなわれ、ヒナは1月の終りから2月の初めにふ化する。島を離れるのは幼、成鳥ともに主に6月にはじまり7月まで続く。8月の第2週までには全ての幼鳥の巣立ちが完了し海上に去る (Rice *et* Kenyon 1962b)。

バンディングの回収記録は、繁殖を終えた成鳥と巣立ち幼鳥が繁殖地から北太平洋を北西に移動することを示し、POBSP\*による目視記録は晩夏から初秋にかけてアリューシャン海域に本種が高密度に分布することを示している。これらのことから北日本近海にコアホウドリが夏期に出現するのは、本種に繁殖地からこの海域に向けて北西に曲線を描く渡りのコースがあるためであろう (Sanger 1974b, *cf.* Kuroda 1957)。

相模湾近海における夏期 (5—9月) の記録がほとんどない (Table 2 参照) のも、春期には大部分のものが北日本 (銚子以北) に北上してしまうためであろうと考えられる。

#### ま と め

1. 東京湾 (横浜市金沢区小柴) で1959年9月28日に捕獲されたグンカンドリ1例をオオグンカンドリ (*Fregata minor*) 幼鳥と判定し報告した。
2. 相模湾近海 (33°—36°N, 139°—141°E) における最近 (1950年以降) のコアホ

\* Pacific Ocean Biological Survey Program, Smithsonian Institution.

ドリ (*Diomedea immutabilis*) の記録をまとめ、分布と渡りについて若干の考察をした。コアホウドリは相模湾近海に 12, 1, 2, 3 月の冬期に出現し、夏期 (5-9 月) の記録はほとんどない。これは春期にはほとんどの個体が北日本 (銚子以北) に北上してしまうためと考えられる。

#### 引用文献

- 千葉県 1976 千葉県鳥類目録 p. 14. 千葉県環境部
- 藤本 勉 1956 オオグンカンドリ八丈島に迷行す 鳥14 (67) : 31-33.
- 環境庁 1976 鳥類観測ステーション運営 p. 145.
- 清棲幸保 1965 日本鳥類大図鑑 (増補改訂版) III : p.985 講談社
- Kuroda, Nh. 1957 A brief note on the pelagic migration of the Tubinares. Misc. Rep. Yamashina Inst. Ornith & Zool. 11 : 436-449.
- 三島冬嗣 1957 アホウドリ類 *Diomedea* 3 種の記録 鳥獣集報16(1) : 117-118.
- 村上司郎 1959 珍しいグンカンドリ 日本野鳥の会横浜支部報26 : 10-11.
- Murphy, R. C., Niedrach, R. J. & Bailey, A. M. 1954 Canton Island. Museum Pictorial No. 10 Denver Mus. Nat. Hist. 79pp.
- 日本気象協会 1973 1940-1970 台風経路図30年集
- Rice, D. W. & Kenyon, K. W. 1962b Breeding and Behaviour of Laysan and Black-footed Albatross. Auk 79 (4) : 517-567.
- Sanger, G. A. 1974b Laysan Albatross (*Diomedea immutabilis*). In "Pelagic studies of Seabirds in the Central and Eastern Pacific Ocean". Smithsonian Contr. Zool. No. 158 : 129-153.
- Serventy, D. L., Serventy, V. & Warham, J. 1971 The handbook of Australian Sea-birds : 153-157. A. H. & A. W. Reed.
- 東京都 1975 東京都産鳥類目録 : 36-37 東京都公害局

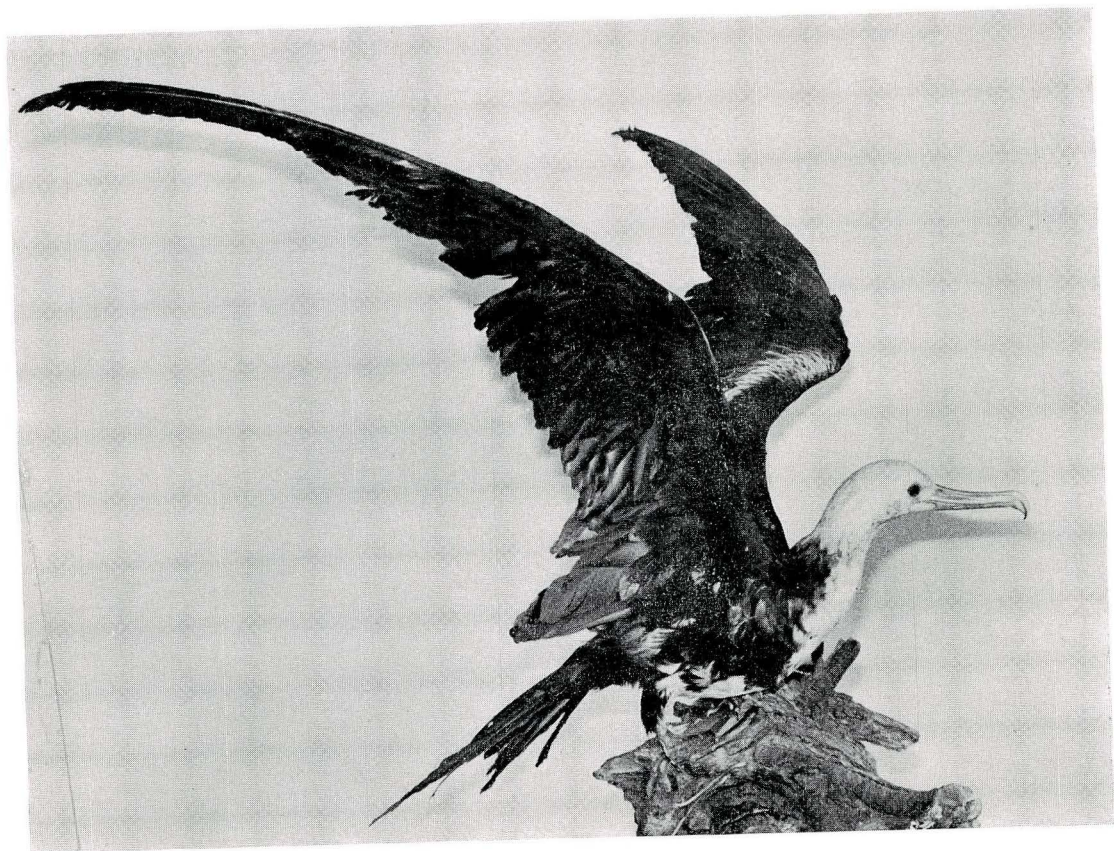


Plate 1 An immature Greater Fregate Bird (*Fregata minor*) collected in Tokyo Bay, 28th September 1959.